

090201旅行業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2019	7	10 ～ 12	被災者は乗用車に乗り、小学校から道路に入り、直線道路を運転していたところ、対向車線を走っていたミキサー車に正面衝突した。ドライブレコーダーを確認したところ、被災者の運転していた乗用車が、センターラインを越えていた。	231	17	1 ～ 9
2019	11	10 ～ 12	営業職として業務に従事していた被災者が出勤前に自宅で倒れ、搬送先の病院において急性心筋梗塞により死亡したもの。	911	90	1 ～ 9
2016	5	9 ～ 10	被災者が、自身の勤務するビル7階の事業場の窓から、直下の歩道へと墜落し死亡した。墜落高さ22.9m。災害発生状況を確認した者はおらず、通行人が、倒れている被災者を発見した。	418	1	1 ～ 9
2013	11	12 ～ 13	添乗員（被災者）は、ツアー客の昼食のために立ち寄ったレストランにおいて、ツアー客を席へ案内していて、階段の2階から1階へ転落した。その際、1階にある柱に頭部を強打し、病院に搬送されたが死亡した。	413	1	50 ～ 99
2012	1	8 ～ 9	被災者が運転する観光バスは、日帰りバスツアーで目的地へ向かって、高速道路のトンネル内の追い越し車線を走行中、突如、走行車線から追い越し車線へ車線変更してきたトラックに激突され、バスに乗車していた添乗員が死亡、運転手が足を打撲する怪我を負った。	221	17	1 ～ 9
2009	7	1 ～	社内にて新たな企画を上司に説明している際、意識を失い、救急車にて病院へ搬送されたが意識が回復せず翌日に死亡した。	921	90	10 ～

		2				29
2006	10	16	被災者が市道（優先道路）を営業車で走行中、対向車線を走行していた4トントラックが脇道から進入してきた2トントラックに激突されたはずみで車線を横断し、被災者の車に激突した。	221	17	50 ～ 99
2006	5	14 ～ 15	旅行の日程等打ち合わせ終了後、不調を訴え自宅へ薬を飲みに帰ったところ倒れた。	921	90	1 ～ 9
2002	11	15 ～ 16	乗用車で国道を走行中、交差点で右折のため停車中の大型トラックに追突した。	231	17	10 ～ 29
1999	8	10 ～ 11	普通乗用車で有料バイパスを走行中、運転を誤って中央分離帯に乗り上げ、さらにトンネル入り口の壁に激突した。	231	17	50 ～ 99
1999	9	18 ～ 19	バスの添乗員が乗客をバスから降ろして、会場まで先導したのち、近くの交差点を横断していたところ、右折してきた軽四自動車にはね飛ばされた。	231	17	1 ～ 9
1999	8	14 ～ 15	ツアー客を乗せた観光バスが国道を走行中、対向の自動車運搬専用トラックがカーブを曲り切れずに中央線をはみ出して観光バスと正面衝突し、観光バスの添乗員が死亡し、運転手とガイド及びトラック運転手が負傷した。	221	17	10 ～ 29
1999	1	11 ～ 12	得意先訪問のため自動車で走行中、路肩に止まってチェーンを付けていた乗用車に気づき手前でブレーキをかけたところスリップし、止まっていた乗用車に衝突した。	231	17	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。